

## 課題

以下の文章を読み、下線部についてあなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

一度だけ、いつも優しい指導医が驚くほど厳しい表情をしているのを見ました。それは私ではなく、私の担当する患者さんに向けられたものでした。

その患者さんは検診で異常を指摘されて当院を受診し、肺癌と診断された男性でした。転移があったため手術適応でなく、化学療法も効かず完治は不可能、余命は僅かであると考えられました。それでも、彼とその家族は「僅かな希望にかけて」さらに他の治療を継続することを望みました。私は担当の医師として、全身状態や病態の把握だけでなく一人ひとりの社会的な背景や気持ちの変化にも寄り添いたいと思っていました。そして、その時の彼と家族は治療を続けることに唯一の希望を見出しているように見えました。患者さんの望みを奪うことは生きる意欲を奪うことになるのではないかと。しかし、体力の落ちた患者さんにリスクを伴う治療を続けてもいいのか。悩んだ私はその患者さんに何も言うことができず、状況を指導医に相談しました。その指導医は普段から患者さんにも研修医にも優しく、話す患者さんが笑顔になるような先生でした。それは先生の人柄が良いからだと思っていましたが、この相談をきっかけにそうではないことが分かりました。相談をするとすぐに患者さんとその家族を呼ぶように言われ、そのとき指導医が迷わず行った IC は「治療はもはや無意味であり、続けるべきではない」という内容でした。かなり厳しく完治の可能性の低さを語り、余命を病院ではなく自宅で過ごすことを勧めました。私はその間、ずっと横から普段の指導医からは想像できないような厳しい表情を見ていました。驚きとともに、自分は患者さんに寄り添っていたのではなく、患者さんの苦しさを受け入れることから逃げただけなのだと気付きました。どの診療科の患者さんも病気と闘い、人生の辛い時期を病院で過ごしています。そんな患者さん達に寄り添い、一緒に病気と闘うのが医師という職業です。しかし、やはり第一に大切なのは、質の高い医療を正しく提供することであると感じました。涙を流す家族を前に淡々と語る指導医の厳しい表情の奥には、患者さんへの真摯な思いやりと医療者として正しい姿が見えました。

東京女子医科大学病院 コンピタンスー評価小論文 より抜粋

(IC:インフォームドコンセントの略)